

# インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No. 213

2021年11月29日

発行所 兵庫教育文化研究所  
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

## 岩手県大船渡市立猪川小学校との交流で学ぶ防災教育 防災教育部会

姫路市立増位小学校の小野大介さんが11月18日に6年生で「未来に目を向けよう～減災力を高めよう～」をテーマに総合学習が実施された。学校は、土砂災害警戒地区に立地しているため、大地震や自然災害などについて危機意識を高め、自らの命を守るための判断力や行動力を身につけることをねらいとして様々なとりくみがおこなわれた。そのひとつに防災教育部会の共同研究者である富永良喜さんの紹介で岩手県大船渡市立猪川小学校と交流授業をおこなう計画をしていた。そのオンラインでの交流授業を参観させていただいた。



指導計画の第1次では、新聞やNHK番組の視聴から課題意識をもたせる。第2次では、校区内の調査をおこない、ハザードマップを作成。校区内の危険箇所を知り、「防災クロスロード」をおこなうことで想定される事象について考えをもたせる。第3次では、地域にある自衛隊を訪問し、災害時における自衛隊の救援活動について学び、身近な物での応急処置の仕方や担架づくりなどの活動をした。第4次では、「猪川小学校と防災学習を交流しよう」とお互いの地域や学校を紹介し、お互いの防災や減災のとりくみを紹介し合い、本時では、「伝えたいこと広めたいこと」を考え、発表する授業だった。



画面越しに、意見を交流する姿は、2000 km離れているとは思えないほどスムーズなやり取りがあり、子どもたちは自分の意見を伝えたいと意欲的な姿が見られた。「交流で学んだことで伝えたいこと・広めたいこと」の発表場面で、増位小学校からは、「地域の人との交流や関係を大切にしたい」また、「命の大切さを伝えたい」との発言があった。猪川小学校からは、「歌やマンガで楽しいと思いついて伝えたい」「替え歌やポスター、ハザードマップで親しみやすくしたい」と発言があった。お互いのとりくみから得た意見だったが、災害を経験していない増位小学校の子どもたちが災害を経験した猪川小学校の子どもたちに心を揺さぶられたと感じる意見が印象的だった。

事後の会では、猪川小学校の子どもたちが入学したときに校庭に仮設住宅が建っていて、遊べなかったことや仮設住宅の地域の方との交流を経験していたことを聞いた。共同研究者の方からは、「オンラインで子どもたち同士が自由に会話できる時間を設けても楽しいのではないか」とのアドバイスがあった。オンラインでの交流は、使うツールによっては教育委員会の承諾と開設が必要であることや機器の取り扱いなどの準備が必要なために躊躇しがちになるが、防災教育部会では、感染症流行下でなくてもオンラインで被災地と交流できるとりくみの手法も伝えていきたい。また、授業者の柔軟な発想が防災教育の幅を広げていくことも実感した。